

行政視察報告書
(オンライン)

令和4年1月

議会運営委員会

1. 視察実施日

令和4年1月19日(水)
オンラインでの行政視察

2. 視察先及び調査事項

岩手県奥州市
・政策立案ガイドライン策定に向けた取組みについて

3. 参加者

＜議会運営委員会＞

委員長) 小紫泰良 副委員長) 大畑一千代

委員) 山本通廣、桑村繁則、岸本眞知子、鷹尾直人、別府みどり

＜議長＞ 小川忠市 ＜副議長＞ 高瀬俊介

＜事務局＞ 肥田繁樹(事務局長)、山川美智子(次長)、松本裕介(副課長)

4. 岩手県奥州市の概要

市制施行年月日	平成18年2月20日(2市2町1村が合併)
人口	114,019人(令和3年3月末)
面積	993.30km ²

5. 調査事項の概要

政策立案ガイドライン策定に向けた取組みについて

(1) 正副議長マニフェスト(専門的な委員会活動で課題解決力の強化)

正副議長の所信表明で、常任委員会強化による政策立案・政策提言の実現が示されたことにより、専門的な事務調査などで課題解決に結びつける委員会活動が行われている。

(2) 政策立案等に関するガイドライン(政策の立案・提言ルール)

ア 政策立案は、市政課題の解決のため政策を構想し、必要な条例を議会に提案することであるが、時間がかかってしまう。

イ 政策提言は、市政課題の解決のため必要な政策をまとめ、市長に提言書として提案することであるが、拘束力がないため、やってくれるのか心配である。

ウ 政策決議提案は、政策提言の内容を議会で決議案として可決し、議場において提言書を提出することで、双方の良い所を取って、議会の意思決定としての重みを付け、実現を担保する。しかも、スピード感を持って行うことができる。なお提言書提出後は、フォローアップの実施として、一般質問や委員会調査で進捗チェックを行い、必要に応じて是正を求めることとしている。

(3) 政策決議提案による提言書と成果

提言項目（令和元年度）

- ア 公共交通施策に関する政策提言書（総務常任委員会）
 - ・提言がバス交通計画に採用
- イ 交通安全対策に関する政策提言書（建設環境常任委員会）
 - ・提言により、高齢ドライバー講習が実現
- ウ 農業振興及び地域6次産業化の推進に関する提言書（産業経済常任委員会）
 - ・提言が地産地消計画に採用

提言項目（令和3年度）

- ア 将来の公共施設の在り方に関する政策提言書（総務常任委員会）
- イ 地域おこし協力隊制度を活用した産業振興に関する政策提言書（産業経済常任委員会）
- ウ SDGsの実現及び環境問題に関する政策提言書（建設環境常任委員会）

提言予定項目（令和3年度）

- ア ICTを活用した学校教育に関する政策提言書（教育厚生常任委員会）

(4) 政策立案等に係るスケジュール

- ①市民の意見等を把握（ワールドカフェ等）
- ②課題掘り起しとテーマの決定（常任委員会）
- ③市の現状を調査（所管事務調査）
- ④先進自治体を調査（先進地視察）
- ⑤市との協議と市民意見調整（常任委員会）
- ⑥議会の総意で発議案の提出（全員協議会）
- ⑦発議案の可決と提言書提出（政策決議提案）

(5) 調査検討テーマの設定方法

ア 市民意見等の把握

- ①市民と議員の懇談会（ワールドカフェなど）
- ②市民からの請願・陳情
- ③常任委員会委員による日常的な広聴活動

イ 常任委員会の所管事務調査等

所管事務調査から浮き彫りになった課題についてテーマとする場合がある。

ウ 市の各種計画策定・見直し等

計画に係る課題をテーマとする場合、当局の検討時期に合わせて提言することにより、計画への搭載、施策の実現につながる可能性が高まる。

(6) 当局との意見調整（提言実現につながるキーポイント）

ア 施策担当者との事前調整

政策提言の内容が一定程度まとまるまでに、随時当局の政策提言に関わる施策担当者との意見交換の中で、施策を取り巻く様々な現状、課題、実現性、将来展望等を協議し、事前の調整をする。この調整により、当局側の施策遂行に伴う悩みや問題点などを確認することができ、政策提言の内容をより良いものにできる。

イ 常任委員会委員と当局部課長等と協議

上記アを踏まえて、各常任委員会では、より精度の高い提言へと修正を加えていき、政策提言の内容が一定程度まとまった段階で、今度は常任委員会委員と当局の政策提言に関わる担当部課長との意見交換の中で、さらに政策提言を実現するための課題、実現性、将来展望等を協議していく。この協議により、当局側の現状を委員が共有することができ、その後のフォローアップ時の一般質問、所管事務調査、是正措置の要求等において、施策遂行の課題などの背景を踏まえた追及にもつながる。

6.委員会としての視察まとめ

オンラインでの行政視察であったため、慣れない部分はあったが、奥州市議会の方の丁寧な対応のお陰で、対面での視察と変わらない成果が有ったと思う。感謝したい。

調査事項の概要「政策立案ガイドライン策定に向けた取り組みについて」は、上記の通りであるが、奥州市議会では、各常任委員会において、「政策提言書」を提出するに当たり、ルールが必要ではないかとの観点から、議会改革検討委員会において協議、策定された。

加東市議会では、決算特別委員会において、来年度以降の市政への反映を目的に、審議過程で出された意見や改善点などを市長に提出しているが、奥州市議会のされている「政策提言書」提出までには至っていない。今後、加東市議会として「政策提言書」を提出できるようになることを目標として、政策立案等に関するガイドライン策定に進んできたが、今回の行政視察を通じて、奥州市議会を参考として、政策立案等に関するガイドライン策定はできると思えるが、奥州市のような、常任委員会を通じてガイドライン策定を考えると、常任委員会正副委員長のリーダーシップと議員それぞれの覚悟とに委ねられると考える。

各委員からの考察、感想

小紫泰良委員長

- ・ オンラインでの行政視察であったため、慣れない部分はあったが、奥州市議会の方の丁寧な対応のお陰で、対面での視察と変わらない成果があったと思う。
- ・ 奥州市議会では、政策提言に類する政策立案等についても施策に関して専門的に調査する常任委員会が実施主体となっており、加東市でも同様のことは考えられるが、加東市では、委員会に偏らずにもっと幅広い選択肢があると思うので加東市では想定していないことが出てくるのではと思った。
- ・ 政策提言した後のフォローアップが重要であると思った。委員会が主体になると考えるが、正副委員長や中心となる議員が引っ張っていかないと進まないのではないかと。

大畑一千代副委員長

- ・ これまでの提言書をみると、非常に充実した内容の濃いものとなっている。費やされた労力や時間も大きかったものと推察される。
- ・ 各議員・委員と事務局の頑張りや取り組みに敬意を表す以外にない。
- ・ 加東市議会としても奥州市議会に近づくよう励みたい。

山本通廣委員

- ・ 奥州市議会では成果があがっているようであるが、当議会におけるガイドラインの策定については、仮に、政策提案の合意形成がなされた政策案を当局に手交した場合、当局の取扱いはどうなるのか。
- ・ これまで、行政当局の無謬性の姿勢から政策の実施を期待するには無理があるので、従って当局が実現すべき政策として受け入れざるを得ない提言を留意して慎重に策定に取り組むべきことと思料する。

桑村繁則委員

- ・ 市民の声・市の現状を調査し、施策の実現。
- ・ 常任委員会での課題の掘り起こし、さらに市民との意見調整。
- ・ 全員協議会の総意で発議案の提出、そして可決により提言書の提出。さらに一般質問や委員会の調査での是正要求と政策立案にかかわるスケジュールがよく理解できたが、提言書の提出後のフォローアップの実施も重要と感じた。また、ガイドラインの作成には十分な時間が要すると思った。

岸本真知子委員

- ・ 第15回マニフェスト大賞で最優秀マニフェスト推進賞を受賞された奥州市議会の政策立案等ガイドラインを、当市議会では政策にあたり参照させていただいているが、この度のオンライン視察では、政策立案・政策提言への取組みを詳細にご教示いただいた。
- ・ 議事機関である議会は、市政を監視及び評価を行う機能と、政策立案・政策提言する機能を併せ、議会機能の強化と施策の実現を図るとある。奥州市議会では、政策提言の

内容を議会で決議案として可決（原則全会一致）し、議場で市長に直接提言書を提出することで、議会の意思決定の重みをつけ、政策の実効性を高められている。

- ・ 政策決議提案のサイクルとして、先ずワールドカフェでの市民の意見を把握されている。市民とともにまちづくりの活動に取り組みられることは、議会への市民参加を図る格好の手段である。
- ・ 正副議長のマニフェストに常任委員会による専門的調査や政策提言の実現を挙げられており、従来の委員会のあり方を、政策提言を検討する委員会の強化に求められ、常任委員会で政策提言のテーマを決定とされている。委員会活動を活発に行うことで、市民に開かれた議会にと繋がられている。
- ・ 議会改革を来期に繋げるには不断の努力、不断の議論が必要という言葉とともに、二元代表制での善政競争を展開していくことで、住民の起点の行政の実現、市民福祉の向上に繋がることを肝に銘じ、議会の活性化を目指したい。

鷹尾直人委員

- ・ 初めての体験、オンライン行政視察。どうなるのかと心配しながら会議室に入った。しかしながら、思っていたよりは、スムーズに進行し、無事に終わった。ただし、やはり、臨場感に欠けるのは、仕方がないことであった。

事前に奥州市から送付された資料に基づき、説明があり、その後、質疑応答という形で、違和感なく終了した。

奥州市の政策立案等の取り組みは、本当に、議員一人一人の努力は、自分たちがやろうと取り組んだものなので、当たり前と言えば当たりの苦労の中でできたことだが、より大変だったのは、事務局職員の方々の努力、苦労だったと思うし、間違いないことが、質疑応答の中からもうかがえたところである。

この政策立案の取り組みは、一つの条例を策定するのに、例えば、「奥州市子どもの権利に関する条例制定」の経過を聞くと、市民や関係機関等との懇談会等を19回、議会内部や市関係部署等との会議を26回開催して、やっと条例制定にいたるとのことである。

政策立案等の取り組みに直接かかわりを持っていない議員にあっては、なかなか理解できないでしょうし、実施にどれだけのエネルギーが必要かといったことを十二分に協議する必要があるところである。当議会も現在作成中であるが、ガイドライン作成後、「加東市版」でどのように取り組んでいくか、全議員で協議・検討する場を設け、全議員の納得する中で取り組んでいく必要があると考えます。

別府みどり委員

- ・ 政策立案にかかるスケジュールがとても細かく、しっかりと時間をかけて取り組まれていることがよくわかりました。特に、市民との意見交換の開催回数も多く、また、意見が出やすい方法を工夫しての開催や、対象となる市民（子供にも）意見を聞かれていて、市民の意見の把握について見習いたいところと感じました。

また、関係部局や担当者とのやり取りもしっかりされていて、全員で取り組む環境ができていたと思いました。

小川忠市議長

- 1、奥州市議会がガイドラインの策定に至った契機が正副議長のマニフェストでの決意あった。私も議長就任時に「議会が一体となった政策立案及び政策提案をする仕組みづくりの構築」を掲げており、考え方に共感した。
- 2、政策立案や政策提案の手法等が解らないというのが正直な思いであったが、奥州市議会のガイドラインは参考になると感じた。ただし、奥州市議会までのレベルに達するには現段階では正直難しいのではないかと。奥州市議会を参考にしつつ、加東市議会独自のガイドラインを策定することにより、政策立案等の実践に進展するのではないかと考える。
- 3、現在、加東市議会は決算特別委員会において、次期の予算等に反映してもらうことを目的として、決算審査での意見等をまとめ「意見書」として、市長に提出している。少なからず政策提言のようなベースはできていると思う。今後は、「意見書」ではなく「政策提言」として決議し、提出する仕組みづくりを構築してはどうかと感じた。また、議員や常任委員会が積極的に「加東市政策討論会」に課題や政策を提案し活発な議員間討議をすることが必要ではないかと感じた。（加東市議会の現制度のグレードアップ）
- 4、奥州市議会は、常任委員会による視察や所管事務調査から具体的な政策提言に結びつけていた。加東市議会でも所管事務調査で課題の調査はするが、調査で終わっており政策提言まで至っていないのが現実である。

今後は、各常任委員会の所管事務調査の項目を絞り、任期（2年間）をかけて、政策提言に繋げていければと感じた。
- 5、政策提言の課題抽出には、市民意見の把握が重要である。奥州市議会ではワールドカフェで市民意見を把握しているが、加東市議会でも市民との意見交換会の積極的な活用や議会報告会の方法を検討し、より細やかな市民の意見把握に努めなければと感じた。

高瀬俊介副議長

- ・ 本市議会と奥州市議会とでは議員数、常任委員会数も違い本市議会としては、同じ様な手法を取る事はかなり厳しいかと感じた所です。

本市議会においても、決算特別委員会後の当局に対する提言、一般質問においても提案型の質問、関係団体との意見交換会、議会報告会での市民との意見交換等を活発に行いそれを参考に当局に対し政策提言、政策提案、政策立案を行っていけばと考察する。